

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	日本語学科(昼間部1. 5年制)		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	作文(中上級)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	20 (1) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	501教室
担当教員	松下 修	実務経験とその関連資格	【松下】2013年日本語教員養成講座を修了。3年間、日本語教育機関での入管申請業務及び生活指導に従事。			
《授業科目における学習内容》						
<p>文法や語彙の時間に学習した文型、語彙を用いて、日記、説明文、意見文などさまざまな文が書けるようになる。後半は資格試験に備えて、500字程度で原稿用紙を使った作文にも取り組む。作文を書くことで、文型や語彙などの理解をさらに深めたり、使い方の確認を行ったりする。その後ワードで入力、教師が添削をする。共通の間違ひについてはクラス全体でチェック、フィードバックする。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<p>1. 定期試験:70% 2. 宿題提出:20% 3. チェックテスト:10%</p>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
『おしゃべりしながら書くことを楽しむ中級作文(凡人社)』、『日本留学試験試験問題』から抜粋生教材「朝日新聞日曜版Beなどから抜粋、オリジナルハンドアウト使用。						
《授業外における学習方法》						
毎回、授業内で作文を書き、提出、その後、担当教員から添削を受けた作文をワードで提出する。						
《履修に当たっての留意点》						
辞書を使用してもよいが、できる限り知っている語彙や文型を使い書くこと。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	(1) 理由が詳しく説明できる。	『書くことを楽しむ中級作文(凡人社)』		
		各コマにおける授業予定	原稿用紙の使い、段落で書けるようになる (1)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	(2) 3段落構成	『書くことを楽しむ中級作文(凡人社)』	課題について調べておく、グループワークでの話し合いの際に必要となる。	
		各コマにおける授業予定	3段落で書く(2) わかりやすく説明できる。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	(3) 説明文	『書くことを楽しむ中級作文(凡人社)』	課題について調べておく、グループワークでの話し合いの際に必要となる。	
		各コマにおける授業予定	やり方を順番に説明できる。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	(4) グラフ	『書くことを楽しむ中級作文(凡人社)』	課題について調べておく、グループワークでの話し合いの際に必要となる。	
		各コマにおける授業予定	日本語でグラフを説明できる。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	(5) ハガキ・手紙を書く	『書くことを楽しむ中級作文(凡人社)』	課題について調べておく、グループワークでの話し合いの際に必要となる。	
		各コマにおける授業予定	礼状が書けるようになる。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	(6) 留学試験対策(1)－3段落の意見文が書ける－	『日本留学試験試験問題』	復習 添削後にリライトをし、その後ワードに入力、提出。
		各コマにおける授業予定	短時間で2文を比較し、どちらかを選ぶ日本留学試験の小論文の形式で書く。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	(7) 留学試験対策(2)－4段落の意見文が書ける－	『日本留学試験試験問題』	復習 添削後にリライトをし、その後ワードに入力、提出。
		各コマにおける授業予定	短時間で2文を比較し、どちらかを選ぶ日本留学試験の小論文の形式で書く。		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	(8) 留学試験対策(3)－4段落の意見文が書ける－	『日本留学試験試験問題』	復習 添削後にリライトをし、その後ワードに入力、提出。
		各コマにおける授業予定	短時間で2文を比較し、どちらかを選ぶ日本留学試験の小論文の形式で書く。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	(9) メールで文が作れる。	オリジナルハンドアウト	
		各コマにおける授業予定	宛名、所属の書き方、挨拶、依頼の表現		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	(10) 要約ができる。	生教材	
		各コマにおける授業予定	読解文を読み200字に要約をする。		